

授業コード・科目名 (クラス)	単位数	年次	開講期	担当者	入学年度
Class Code・Course Title	Credits	year	term	Instructor(s)	start year
W028000 がん医療薬学特論	2単位		2023年度後期	渡邊 真一、武智 研志	2023年度

#### 1. サブタイトル Subtitle

最近のがんの薬物治療：薬剤師としての基礎と応用

#### 2. 関連する教育諸方針 Course-Related Policies: Diploma and Curriculum Policy

この科目は、医療薬学研究科の学位授与の方針「高度な専門性をもって患者に最適の薬物治療を提供できる能力」および「薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる能力」と関係する。

#### 3. 授業科目のテーマと目的 Theme of the Course

がん治療専門薬剤師のための基盤となる知識、実践応用についての知識について、理論的・技術的背景、臨床上への応用例を通して最近のがん薬物治療法の概念と具体化の方略を理解する。

#### 4. 授業形態 Class format

メディア授業

#### 5. 授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度 Course Description and Outline

第1回目 臨床試験データの読み方① (講義)

備考：メディア授業。Teams利用、クラスやURLはメール等で告知する。

第2回目 臨床試験データの読み方② (講義)

第3回目 がん治療に伴う難治性の副作用① (講義)

第4回目 がん治療に伴う難治性の副作用② (講義)

第5回目 がん治療に伴う難治性の副作用③ (講義)

第6回目 がん化学療法 Up to Date (講義)

第7回目 分子標的治療薬 Up to Date (講義)

第8回目 免疫チェックポイント阻害薬 Up to Date (講義)

第9回目 副作用対策 Up to Date (講義)

第10回目 がん薬物療法でのチーム医療 (講義)

第11回目 これまでのがん疼痛薬物療法 (オピオイドを中心に) (講義)

第12回目 最新のがん疼痛薬物療法 (オピオイドを中心に) (講義)

第13回目 がん疼痛薬物療法に伴う副作用対策 (講義)

第14回目 がん疼痛薬物療法と経済的評価 (講義)

第15回目 がん疼痛薬物療法と薬薬連携 (講義)

#### 6. アクティブラーニング要素 Active learning

#### 7. 利用教科書 Textbook (s)

書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
-----------	------------	----------------	--------------	---------------

#### 8. 参考書 Reference Book(s)

書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
-----------	------------	----------------	--------------	---------------

※教科書・参考書以外の資料 Materials other than textbooks and Reference Books

講義の都度、対応するプリント、学術論文などを配布する。

#### 9. 準備学習(予習・復習) Expected Work outside of Class

時間

履修登録の対象者には事前にプリント配布と学習ガイドラインを示すので、それによって予習を行うこと。	1.0 時間
講義後にまとめレポートの作成を行う。	3.0 時間
合計時間	4.0時間

1 0. フィードバック Instructor Feedback
課題レポートについてフィードバックする。
1 1. 評価の方法・基準 Criteria for Evaluation
レポート80%、授業への取り組み20%で評価する。レポートの提出は、授業内容に関するテーマについて4回程度を予定している。
1 2. 学習の到達目標 The Main Goals of the Course
第1、2回目 がん薬物療法に必要な医薬品情報学の理論・方法について論理的に説明できる。疫学的調査方法について例を挙げて説明できる。 第3～5回目 がん化学療法の際に生じる薬剤の副作用とその対処方法について、例を挙げて論理的に説明できる。 第6～10回目 がん化学療法における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。 第11～15回目 がん緩和医療における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。
1 3. その他留意事項について Additional Instructions / Comments to Students
1 4. ナンバリング Numbering
—
1 5. 実務家教員 Practitioner-Teacher
1 6. 曜日時限 Schedules